



ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 354
September
2022

トピックス

関係機関との協力推進

第18回APEC緊急事態の備え作業部会会合への参加

第15回APEC防災担当高級実務者会合への参加

ADRCインターンレポート

キール・ハミルトン (ルンド大学)

お知らせ

「ぼうさいこくたい2022ワークショップ」の開催

第3回APEC CATバンド・バーチャルワークショップ

Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540
Fax: 078-262-5546
editor@adrc.asia
https://www.adrc.asia

© ADRC 2022

● 関係機関との協力推進

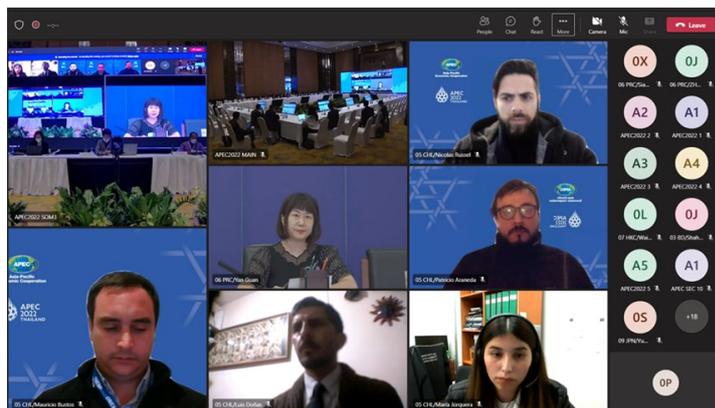
第18回APEC緊急事態の備え作業部会会合への参加

2022年8月18日、第18回APEC緊急事態の備え作業部会 (EPWG) 会合がタイ・チェンマイ及びオンラインで開催されました。アジア防災センター (ADRC) からは現在EPWG共同議長を務める鈴木弘二プロジェクトディレクター、笹原顕雄所長、ジェラルド・ポトゥタン主任研究員、塩見有美主任研究員が参加しました。本会合はタイ政府が主催し、「COVID-19後の災害に強い復興に向けた災害リスク軽減の推進とパートナーシップの強化」をテーマに開催されたものです。

ADRCはこの会議で2つの発表を行いました。最近の防災の取り組みの事例として、アジア太平洋地域における最近の災害 (2021-2022年) に関するGLIDEシステムの適用と衛星画像の活用について紹介しました。GLIDEシステムでは、世界災害共通番号を災害に割り当てることにより、災害リスク軽減 (DRR) データを統合し、異なる国や組織の様々なデータベースから過去や進行中の災害情報を検索することの効率化を支援します。さらに、アジア太平洋地域宇宙機関会議 (APRSAF) が主導し、WEB-GIS技術と地球観測衛星データを用いて災害管理を支援する「センチネル・アジア」を通じて、被災地の災害前後の衛星画像をメンバーに提供しています。

また、他の作業部会とのコラボレーション事例として、準天頂衛星システム (QZSS) を利用した日本の早期警戒サービス (EWS) の避難・対応活動への貢献の可能性について発表しました。QZSSは日本の全球測位衛星システム (GNSS) のコンステレーションであり、宇宙衛星を利用して警報情報を送信する能力を有しています。QZSSは、地上通信網のカバー率が低い遠隔地や山間部での利用が期待されており、また、災害時にサービス中断の恐れがある地上通信網を補強するものでもあります。本プロジェクトで内閣府は台湾、カンボジア、インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ、バングラデシュ、ネパール、オーストラリア、フィジーにフィージビリティ・スタディと実証実験への参加を要請しています。

このようにADRCはアジア太平洋地域でDRRプロジェクトを実施しており、EPWGのパートナーシップを強化していきたいと考えています。



EPWGの様子

第15回APEC防災担当高級実務者会合への参加

2022年8月19日、タイのチェンマイで第15回APEC防災担当高級実務者会合（SDMOF-15）が開催され、前日のEPWG会合に引き続きADRCも参加しました。SDMOF-15では、2015年APEC防災枠組み及び2016年防災行動計画を、コロナ後の復興の文脈で更新すべきかどうか重要な議論の1つになりました。

2015年、APEC首脳は適応力、レジリエンスのあるアジア太平洋経済に貢献するためのAPEC防災枠組みを採択しました。災害や「ニューノーマル」に直面してもインクルーシブで持続可能な開発を支えることを目指すものです。この防災枠組みと行動計画は、災害の影響に対処するためには、経済のレジリエンスを高め、総合的、積極的で、マルチステークホルダー、マルチセクターによる戦略的な介入の必要性を認識するものです。したがってこの枠組みは、農林水産業、貿易・投資、エネルギー、零細・中小企業、インフラ開発、重要インフラの回復力、金融の回復力、人的資本、健康、ジェンダー、食料安全保障、科学技術、生態系の健全性など、APECアジェンダのすべての分野にまたがるものです。7年が経過し、チャイニーズ・タイペイ、フィリピン、チリの3エコミーは、文書の見直しと更新の必要性を表明しました。

この議論を踏まえ、ADRCは、2015年APEC防災枠組み及び防災行動計画を更新し、これらの文書を地域のパンデミック後の復興努力に対応したものにするとともに、「プトラジャヤ・ビジョン2040」とそれに対応する「アオテアロア行動計画（APA）」に合致させることへの支持を表明しました。



SDMOF-15の様子

●ADRCインターンレポート

キール・ハミルトン（ルンド大学）

私は、キール・ハミルトンと申します。スウェーデンのルンド大学で災害リスク管理と気候変動への適応を専攻する修士課程に在籍しています。この夏、私はADRCでのインターンシップに参画して、自分の専門性と学問的な成長とを目指しました。インターンシップでは、ADRCデータブックの最新版（2021年版）の作成に携わり、1990年から2021年までの災害データを分析、概括しました。特に、世界的な傾向、アジアの傾向、ADRCメンバー国の状況及びCOVID-19のモニタリングに重点を置きました。被災者数、死者数、被害額（単位：千米ドル）を用いて災害状況をグラフ化し、定性分析によりデータが示唆することを検証しました。



続き

主な調査結果

災害の頻度と深刻さが増していることがわかりました。ハザード状況の変化に加えて、予測、認識、評価の手法の改善が、1900年から2021年までの災害発生数の大幅な増加傾向、そして1990年から2021年までの加速度的な増加をもたらしています。アジアは最も被害の大きい大陸であり、被災者数、発生件数、経済被害額ともに中国が最大となっています。最も多い災害は洪水と暴風雨であり、気候変動により、これらの災害はより一般的になっています。最後に、定性分析の一環として、人口、開発レベル、社会政治的条件、発生時期の偏りが、主要な決定要因として災害データに与える統計的影響について考察しました。

振り返り

ADRCチームとの共同作業は、私の知識を広げ、災害の状況について理解を深めることができました。これは忘れがたい経験となりました。この基盤の上に、防災のメソドロジーを継続的に改善し、よりレジリエントな未来に向けた効果的な変化をもたらすことを目指します。ありがとうございました。

●お知らせ

「ぼうさいこくたい2022ワークショップ」の開催

2022年10月22-23日にHAT神戸で開催されるぼうさいこくたい2022のサイドイベントとして、ADRCは22日に「在日外国人が見た日本と外国の防災の違い ～違いを知ることから始める防災協力～」を開催します。

日時：2022年10月22日（土）15:30-16:30
場所：JICA関西 3階 セミナールーム33・34

ご関心のある方々のご参加をお待ちします。オンライン参加と会場参加両方可可能です。以下の登録フォームからお申込みください。

オンライン：<https://bit.ly/BK2022ADRC>
会場：<https://bit.ly/BK2022ADRC2>
問い合わせ先：bosai_kokutai2022@adrc.asia

第3回APEC CATボンド・バーチャルワークショップ

2022年10月4日09:00-11:30 (UTC+7)、第3回APEC CATボンド・バーチャルワークショップが開催されます。本ワークショップは、国債の「キャタストロフ・ラッパー」と呼ばれる革新的なアプローチといったCATボンド市場の最近の動向や、CATボンド導入計画の経験共有の場を提供することを目的としています。

詳細およびお申し込みは、Ms Marian Albano (marian.albano@wtwco.com)までご連絡ください。

問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。